



木版印刷プロモーション 竹中木版 竹笹堂

知恵の使いどころ

「木版印刷」という動詞の仕事を、時代に合わせた様々な名詞(美術品・インテリア商品)に、使用範囲を広げる。

また、木版で培った知識や技術をフルに活用し、他分野への市場開拓を積極的に展開している。制作の一環だけではなく、出来上がった作品などの、プロモーションまで行い、一貫した事業を行う。



強み

日本古来の印刷である木版の摺り手として、代々受け継いできた技術・知識の蓄積と職人として培ってきたネットワーク、相互交流を基盤に、木版をベースにしたあらゆる新しい発想に順応に対応できる強みを持つ。世界を驚愕させた『浮世絵木版画』の作り手として、専門的職人技という特異性が、新市場に高付加価値として活かされる。



プロフィール

明治24年より「竹中木版」として摺師業を営む。

5代目竹中健司は、「竹中木版」摺師として継承しつつ、より木版の可能性を広げるため、平成11年「竹笹堂」を設立。従来の受注生産に加え、古の出版広告業として、また木版によるプロデュース事業も行う。現在は6代目原田裕子を筆頭に、木版デザインを使ったステーションナリーへの展開から、デザイン事業へも進出している。

実績・成果

- ・ あらゆるイベント等の実施により、日本はもとより海外へも事業展開。(特に美術館・企業・学校など)
- ・ ダブルネームとして、新しい商品展開を行い、専門職の可能性を拡充。(インテリアショップ・ミュージアムショップ・映画配給会社・和菓子屋など)
- ・ 美術館・寺院所蔵の古い版木などの修復・復刻事業。

